

鯖江市総合戦略推進会議【要旨】

日時 令和元年 11 月 11 日（月）

午後 1 時 15 分から

場所 市役所 4 階 全員協議会室

【欠席】 3 委員（2 委員出席）

1 開 会

2 議 事

(1) 第 2 期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

(2) その他

3 閉 会

【配付資料】

資料No.1 第 2 期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

資料No.2 体系図

資料No.3 分科会での意見と検討結果

【議事要旨】

▼会長あいさつ

それでは、ただ今から、第 2 回鯖江市総合戦略推進会議を開会します。委員の皆様には、ご多用のところご出席をいただきありがとうございます。本日の会議の所要時間は、1 時間 30 分程度を予定いたしていますので、委員の皆様には進行にご協力いただきますよう、よろしくお願いします。それでは、会議次第に従いまして、順次、進めてまいりますと存じます。まず、会議次第議事「第 2 期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」の審議を行います。事務局から説明をお願いします。

▼「第 2 期鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について」

○資料 No. 1 ～ 3 について政策経営部長から説明。

○質疑・意見

委員： 資料No.2 の 11 ページの「1.6 魅力あふれるまちなかの創造→4.5 中心市街地の活性化→1.3.6 新規都市再生整備計画事業」について、どのような事業か。

都市整備部長：

まちなかの道路や認定こども園の整備、公民館などの耐震整備などを実施している事業で、今後も古くなった道路や建物の整備を進めていく予定である。

委員： 今の説明を聞くと、今回削除された「中心市街地活性化基本計画の策定」とは文脈が違ふのかなと感じたが、中心市街地に関して何か念頭に置いているものはあるか。

産業環境部長：

「中心市街地活性化基本計画の策定」の削除について、現在この計画の策定は行っておらず、今後も策定する予定はない。ただ、賑わいづくりの部分に関係してくるが、サテライトオフィスの誘致について、中心市街地への企業誘致の面だけではなく、事務用品を買ってもらう、食事をするなど中心市街地の賑わいの呼び水となって、新たな企業を誘致していくといった好循環を生み出していきたいと考えている。

委員： 中心市街地をこういう街にしていきたいといった大きなものを掲げて、その中でサテライトオフィスの誘致が盛り上げるための一助になるという形にすることによって整合性、将来的なストーリーが描かれるのかなと思う。中心市街地の問題は行政だけではできないので、今回の改定に盛り込むことは難しいと思うが、今後につなげていく何かを文脈に付け加えてもいいのかなと思う。

政策経営部長：

中心市街地については、先日開催された分科会においても、委員からまちなかへの誘導に対する具体的な施策を記載すべきとの意見もいただいた中、まちなかにインフラなど集約し進めているが、なかなか活かしきれていない。鯖江市も店舗など郊外に多く進出し、まちなかへの求心力も弱くなっており、行政の施策だけでは限界がある。やはり市民の皆様と改めてまちなかの優位性に気付いていただくような施策も必要ではないかと思う。また、「中心市街地活性化基本計画の策定」については、現総合戦略を策定する中で、まちなかにある商店街の再開発を進めていったらどうかといった意見があり、主要な事業として記載したが、費用面、デベロッパーも投資効果が上がらないと言われて、手詰まりの状態にあり今回の総合戦略には外させてもらった。

委員： 中心市街地の問題については、私自身も以前、寺町を中心として活性化策に取り組んだが苦慮した。実際取り組もうと思っても建物規制などあり、具体案がなかなか見いだせず、結局商店街の方々や市民の皆様の自主的な取り組みにならざるを得ない現状になっている。一番良いのは、大黒屋から旧きくかわまでの区域を市に買い取ってもらう、現在福井市が行っている駅前再開発のようなやり方を鯖江市にもしてもらうことが良いと思うが費用面など難しいところもある。ただ、このままでは駄目なので、皆様に意見、知恵をいただき進めていければと思う。

委員： 今の中心市街地の話については、私自身も取り組んでいきたいと考えており、今ほど行政が買い取るといった話をされたが、やはりこれからは民間主導でやっていかないと、税金を投入してもランニングコストもかかってくるわけで、回収できる見込みもなく、民間と一緒にやっていくべきだと思う。

委員： 私もおっしゃったとおり、民間主導に誘導していくような施策を進めて

いかなければならないと思う。そういう意味で分科会においても、リノベーションという意見を述べた。これから中心市街地においても高齢化が進み、建物等の相続なども発生してくると思うので、その建物をリノベーションし、まちなかに若者や新たなお店を増やしていく、民間主導で賑わいを取り戻していくことが大事で、行政が先頭に立つのではなく、応援する側に回ることにより、自然にうまくいくと思う。今回、コンパクトシティという言葉はなくなったが、鯖江市の特性上、1箇所に集中するのではなく、中心、コアとなる所を何箇所か設定してまちづくりを進めていくことが、今後取り得る未来像だと思うので、その辺りも考慮していただければと思う。

委員： 昭和40年代に高度化資金といって、共同店舗の建設に対し国から助成が出た時代があり、それを利用して共同ビルがいくつも建てられたが、それから年月も過ぎ、共同所有者の中には倒産などで居なくなった者もあり、建物を壊したくても壊せないなどの問題が起きている。しかし、これに対する良い解決策がなかなか見つからない。耐震上問題のある危険なビルにもかかわらず、前に進めていくことができないのが現状である。この問題も公民連携で何か解決策が考えられたらと思う。

委員： 8ページの「13子どもがいきいきと過ごすまち」のKPI指標である「36朝食を食べている児童・生徒の割合」が今回追加されているが、これはどういった理由で追加されたのか。朝食を食べないと成績が悪いといった話なのか、両親の帰りが遅く次の日の朝食が用意できないといった話なのか、どういった事で今回追加されたのか伺いたい。

教育委員会事務部長：

朝食については、家庭の色々な諸事情もあるかと思うが、子どもの目線から考えると、やはり朝食をきちんと食べて、元気に学ぶ体制を取ってもらうことを目的に今回指標として追加した。

委員： 新しく追加した経緯は何か。

教育委員会事務部長：

今回、基本施策を「学力・体力日本一のまち」から「子どもがいきいきと過ごすまち」に変更したが、もちろん学力や体力は子どもたちの将来に向けて大事なことはあるが、学校生活を過ごす上では、子どもたちが学校生活を満足できることが重要でないかとの意見も分科会でいただいたので、それらも踏まえて今回変更した中で、従来のKPI「学校が楽しいと思う児童・生徒の割合」に加え、健康に学校へ出てきてもらうというところで朝食に関するKPIを追加し、子どもがいきいきと過ごすまちを目指していきたいと考えている。

委員： 分かりました。あと、その「子どもがいきいきと過ごすまち」の部分で、子どもの貧困に関わる事業やKPIの記載がない。就学援助は全国的に行わ

れているが、自身が把握している集計では全国平均 15 % に比べ鯖江市は 7 % と低い水準ではあるが、就学援助を受けている子どもがいる。そのあたりについて、例えば、今言った就学援助率 7 % を下げていくといった K P I 指標を追加するといったことはできないか。

健康福祉部長：

子どもの貧困について、この総合戦略には記載はないが健康福祉部においては、貧困の連鎖を断ち切ることを目的に、一人親家庭や生活に困っている家庭の小中学校の児童生徒を対象に、高校進学のための学力向上を目的とした学習支援事業を市内 2 箇所週 1 回だが実施している。

委員： 先ほど言ったとおり、鯖江市では就学援助率が 7 %、約 13 人に 1 人の割合で貧困の子どもがいることになり、各クラスに 2 人はいる計算になる。個人的には学習支援も重要ではあると思うが、今の貧困の問題は子どもたちが文化に触れられないといったところが非常に大きな問題で、そういう意味でも根本的な解決策を講じないといけないのではないかと感じており、その辺りについて何か加えていただければ。

教育委員会事務部長：

教育委員会においては、いわゆる準要保護世帯に向けて給食費など学校活動費に対する援助を行っている。今ほど委員がおっしゃられた援助率 7 % という数値がどこから出ているものなのかこちらとして把握はしていないが、今後も継続して支援を図っていくよう努めていきたい。

委員： 分かりました。あと、4 ページの「6 若者の夢を応援するまち～よそ者に寛大で多様性があるまち～」になるかと思うが、人権と多様性というところで、L G B T Q の記載がない。全てを網羅する必要はないと思うが、L G B T Q については、世の中でも相当普及していると思う。隣の越前市においては、多文化共生に関する課もでき、取り組みが進められている。鯖江市においても取り組みを進めていくべきで、総合戦略に記載すべきだと思う。L G B T Q という言葉が入るだけでも構わないので。

総務部長：

委員のおっしゃるとおりだと思うので、どこかに記載する方向で事務局とも協議する。

委員： 鯖江市が推進している S D G s の目標 5 「ジェンダー平等を実現しよう」については、男女の平等だけではなく、レズ、ゲイ、バイ、トランスジェンダーもジェンダーの中に含めていくという考え方も含まれているので、何らかの対応をお願いしたい。

政策経営部長：

例えば、2 ページの主要な施策の 29 番「ジェンダー平等、女性のエンパワーメントおよび再チャレンジ支援事業」の所になるか分からないが、記載

場所等も含めて検討したい。

委員： あと、同じページのK P I 指標に「13 市役所男性職員の子の養育休暇取得日数」、「14 市役所男性職員の育児休業取得率」が追加されているが、ここに多様性に関する研修受講率といったものも追加されるといいのではないか。

総務部長：

職員研修は実施しているので、追加する方向で検討する。

委員： 今回の総合戦略も意欲的な計画になっており素晴らしいと感じているが、要素を大きく分けると、一つは行政サービスの改善という要素と、もう一つはブランディングという要素だと思う。ブランディングというと、アウターブランディングとインナーブランディングとあるが、鯖江市民の価値観やライフスタイルを変えていくといったインナーブランディングと、鯖江市の魅力を全国あるいは全世界に発信していくといったアウターブランディングがあるが、今言った今後どのように情報発信していくかについての記載が確認する限り見当たらない。また、どこが取りまとめて発信していくかについても確認できない。たしかに部門ごとにいくつか散見されるが、それら個々の部門において担当課ごとに発信していくのか、それとも私自身としては、どこかの課が取りまとめて戦略的に発信していくことが重要だと感じているが、どう考えているか伺いたい。

政策経営部長：

おっしゃるとおり、ブランディングを進める上で、今回の総合戦略を取り組む目的の一つに、鯖江市の人口を少しでも増やしたい、国の施策においても東京一極集中を是正し地方に活力を与えることによって、国全体の底上げを図っていこうとする中、人口増に向けて地域に住む子どもたちが地域への誇りを持つ気持ちを醸成していくことが大きな狙いとしてある。前回から引き続き、4つの重点施策の一つに「ふるさと愛」を掲げ、重点施策は全ての目標、事業に関わってくる共通施策として掲げられているものであるが、この「ふるさと愛」がインナーブランディングの要素として、その醸成に向けたシティプロモーション活動を実施していく。例えば、6ページの「9ものづくり教育とふるさと学習の推進→21ものづくりを核としたふるさと教育の推進→54ふるさと教育推進事業（シティプロモーション推進事業）、55ものづくり教育推進事業（シティプロモーション推進事業）」がこれに該当し現在取り組んでいる。もう一つの国内外に向けた魅力発信についても、めがねのまちさばえ応援企業など民間と協働して取り組みを進めており、今回の総合戦略で言えば、4ページの「6若者の夢を応援するまち～よそ者に寛大で多様性があるまち～→16U・Iターン者定住促進→43鯖江の魅力U・Iターン情報発信事業」が該当すると思うが、外向きへの魅力発信を

図っている。また、それらに加えて、今回「関係人口」を掲げさせてもらった。いきなり鯖江市に移住、定住といっても大きなハードルもあり、鯖江市の情報を発信することで何らかの形で関係を持っていただき、知ってもらった上で移住、定住につなげていきたいとの思いで、今回、基本施策に掲げさせてもらった。

委員： 今説明されたことは全くそのとおりかと思うが、インナーブランディングで言えば、子どもだけではないと思うし、市民一人ひとりがそういう意識を持って日々の仕事等に取り組んでいただくことで、実現していくものだと思う。もちろん内容の充実も必要だが、いかに魅力を感じていただくか、情報発信していくかが大事だと思う。そうしないと外に向けても伝わらないと思う。内容を充実しても知られずに終わってしまっただけでは意味がない。

政策経営部長：

これまで「めがねのまちさばえ」としてシティプロモーション活動を推進してきた中、めがねと言えば鯖江市との認知度も上がってきていると実感しており、ブランディング的に今治タオルと同じくらいの注目度になってきていると感じている。また、国連において鯖江市の取組みも発表させてもらい、国内だけではなく、全世界に向けて「めがねの聖地さばえ」として発信していき認知度向上に努めている。

委員： 内容の充実に加えて、情報発信に関して何か目標等が掲げられたらとの思いで意見を述べさせてもらった。

委員： 今おっしゃられたことは非常に大事だと自身も感じている。今回の総合戦略も市役所職員が主体的に実行していくということではなく、いかに市民が理解し市民主役で取組まれていくかだと思う。策定して終了ではなく、いかに市民に伝え理解させていくか、市民一人ひとりが行動に移していくかが大事だと思う。

委員： 前回、今回と人口ビジョンとセットで策定するやり方は目新しく良いことだと思う。2060年までの長期的なビジョンにおいて5年ごとに見直しをかけていく中で、今回第2期ということだが、1期目の検証がされていないと思う。今述べたとおり、長期ビジョンでの大きな目標の中で、今どのあたりに位置付けられているかという検証、総括が必要ではないか。1期目の課題や整理を行い比較した上で、第2期目を考えていく必要があるかと思う。

政策経営部長：

1期目の総括については、現総合戦略が今年度末までということで、今現在も進行中であることから、総括までは至っていない。なお、第1回目の本会議において市民アンケートの実施とその結果について報告させていただき、そのアンケート結果を踏まえて今回の総合戦略を作成しているが、もう少し見える化できるところがあれば、今後の課題としたい。

委員： サテライトオフィス含め、鯖江市には都会から色々な企業が来ているが、そのきっかけが何かと考えた時、I Tがすごく大きな要素だったのではないかと思う。しかし、その辺りが今回の戦略には若干弱い感じがする。先ほどおっしゃっていた発信が非常に大事で、オープンデータなどはその一つだと思うが、今回削除されている。今回、S o c i e t y 5 . 0といった抽象的なものに集約されてしまっていて、もっとI Tの推進に積極的に取り組んでいるんだというところをもっと発信していかなければならないと思う。また教育においても、鯖江のプログラミング教育の取組みは本当に先進的だと思うので、このあたりもきちんと打ち出していくべきで、I Tという括りで一つ掲げた方が分かりやすいし、外への発信にも有効ではないかと思う。

政策経営部長：

プログラミング教育で言うと、6ページの「9ものづくり教育とふるさと学習の推進→20 I T教育の推進→52子供向けプログラミングクラブ事業」に記載し、また、「オープンデータとI Tで都会的サービスが享受できるまち」に成り代わる施策として、今回、11ページのデジタルファーストの推進ということで、具体的な事業やK P I もほぼ踏襲させていると考えているが、I T、オープンデータに関して付け加えるものがあれば検討したい。

委員： 内容等もそうだが、発信ということを考えた時に、もっと積極的にI Tを推進していることをアピールしてもいいのではないか。もったいないと思う。

政策経営部長：

先ほども鯖江を戦略的にどう発信していくのかといったご指摘もいただいたので、どう見える化し体系づけていくかなど検討させてもらい、次回までにお示しできればと思う。

会長： 分かりました。それでは予定の時間も過ぎましたので、これにて本日の推進会議を終了します。ありがとうございました。